Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数の予測（修正）

発表日：2008年７月１日(火)

～ＣＩ一致指数は前月差＋1.4ポイント、ＣＩ先行指数は同▲0.4ポイントを予想～

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ ＣＩ一致指数は３ヵ月ぶりに上昇の見込み

５月のＣＩ一致指数は、前月差＋1.4ポイント、ＣＩ先行指数は同▲0.4ポイントを予想する。また、ＤＩ一致指数は33.3%、ＤＩ先行指数は40.0%を予想する。

６月27日時点では、ＣＩ一致指数が前月差＋1.8ポイント、ＣＩ先行指数は同＋0.4ポイントを予想していたが、その時点で未公表だった所定外労働時間指数(製造業)（7/1公表）、新設住宅着工床面積（6/30公表）の結果がそれぞれ筆者の想定を大幅に下振れたため、一致ＣＩ、先行ＣＩとも下方修正を行った。また、ＤＩ先行指数も40.0%と、50%を割り込む見通しになる。

ＣＩ一致指数は３、４月には２ヵ月連続で低下していたが、５月は比較的大きな上昇となる。マイナスに寄与するのは有効求人倍率、所定外労働時間指数、商業販売額（卸売業）の３系列で、残りの６系列はプラスに寄与している。５月の鉱工業生産が前月比＋2.9%と高い伸びになったことを受け、生産関連指標のプラス寄与が大きかった（資料３参照）。

○ 基調判断は「基調判断は変えず」

前回４月の景気動向指数において、内閣府が公表するＣＩ一致指数についての基調判断が「局面変化」となり、景気が既に後退局面に入っているとの見方が強まったことは記憶に新しい[1]。５月の予想値を前提にした場合、この基調判断は「基調判断は変えず」になると予想され、引き続き「局面変化」の判断が維持されることになる。５月のＣＩ一致指数は３ヵ月連続で３ヵ月後方移動平均が下降するとみられ、移動平均基準だけみれば「局面変化」から「悪化」へと基調判断が下方修正されることになるのだが、単月の前月差の符号が「基調」と異なる時には基調判断は変わらないというルールが存在するため、５月については「基調判断は変えず」になると予想される。

○ＤＩ一致指数は３ヵ月連続で50%割れ

ＤＩについては、先行指数が40.0%、一致指数が33.3%が予想される。ＤＩ先行指数は10ヵ月連続。ＤＩ一致指数は３ヵ月連続で50%を割り込む見込みである。

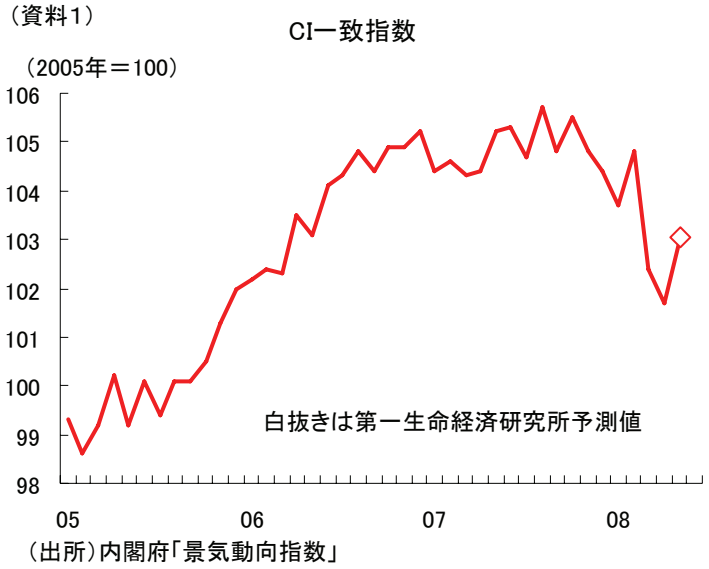
ＤＩ先行指数は、速報段階で対象となる10系列中、４系列が改善、６系列が悪化しており、40.0%が予想される。ＤＩ一致指数は、速報段階で対象となる９系列のうち大口電力使用量、投資財出荷指数、中小企業売上高の３系列が改善したが、残りの６系列が悪化したため、33.3%が予想される。

---

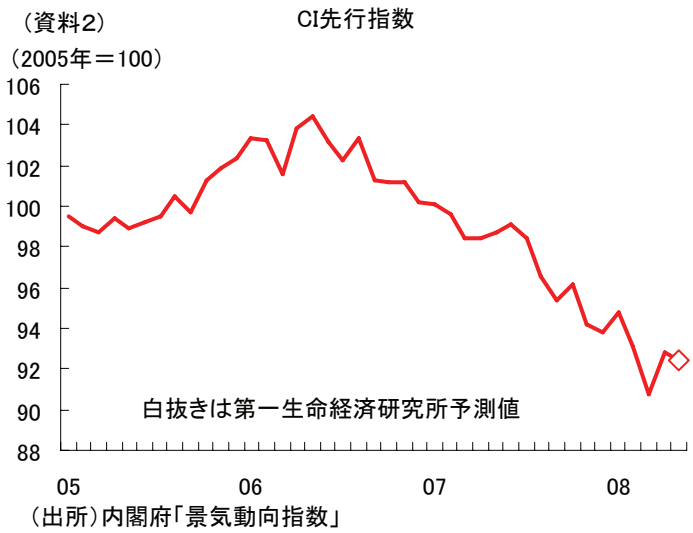
[1] 内閣府の定義によると、「局面変化」とは「事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを暫定的に示す」とされている。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

（資料1）



（資料2）



（資料３）一致指数の前月差に対する個別系列の寄与度の予想

寄与度がプラスの系列	寄与度	寄与度がマイナスの系列	寄与度
投資財出荷指数(除輸送機械)	0.36	有効求人倍率(除学卒)	-0.16
生産指数(鉱工業)	0.35	所定外労働時間指数(製造業)	-0.12
中小企業売上高(製造業)	0.35	商業販売額(卸売業)(前年同月比)	-0.05
鉱工業生産財出荷指数	0.32		
大口電力使用量	0.26		
商業販売額（小売業)(前年同月比)	0.01		
営業利益(全産業)	0.04		
稼働率指数(製造業)	0.01		

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。